

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET45F001	教育哲学特論(Special Seminar in Philosophy of Education)					教育学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学 研究科			氏名 鈴木 篤  E-mail atsuzuki@oita-u.ac.jp 内線 7539						
授業の概要	本授業において受講者は、教育哲学の理論に関する基礎的な知識を習得する。また、教育哲学的な視点に基づき、現代的教育課題を解決するための判断力と問題解決能力を育成する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	教育哲学の理論に関する基礎的な知識を習得する。											
目標2	専門的な知識に基づき、教育哲学的な視点から現代的教育課題を解決するための方法を考える。											
目標3	理論と省察の往還を繰り返すことで、判断力と問題解決能力を育成する。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容	1 教育は具体的に、何をどの程度成し遂げれば(変えれば)いいの? 2 最も効果的な(費用対効果のある)教育って何? 3 日本の親の教育力はどの程度、頼りにできそう? 4 地域の教育力って、具体的にはどんなもの? 5 そもそも「能力」って何? 6 そもそも「学力」って何? 7 教師がいなくても子どもは何をどの程度まで学べるの? 8 環境は学びにどんな影響を与えるの? 9 共同的な学びの長所と注意点は何? 10 子どもはなぜ、先生の言うことを聞かなくなったの? 11 そもそも、子どもたちはなぜ、先生の言うことを聞くの? 12 「教え込み」って本当に悪いこと? 13 学校教育と塾の違いは何? 14 教師に求められる力って何? 15 子どもに力がつくって、具体的にはどんなこと?											
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業にあたっては事前に指示した文献(論文)を熟読して頂くことを前提とし(=理論の学習)、授業においては教育場面を想定した具体的な事例を題材として、主として受講者間、受講者-教員間での議論によって各自の思考を深化させる(=理論に基づく省察)。				工夫 その他						
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	事前に指示した文献(論文)の通読。										
	事後 学修	授業中に行った議論内容の復習と整理。										
教科書	・ 岡本薫(2006年)『日本を滅ぼす教育論議』講談社。 ・ 荒井一博(2007年)『学歴社会の法則』光文社。 ・ 広田照幸(1999年)『日本人のしつけは衰退したか』講談社。											
参考書	適宜、必要な文献は授業中に指示する。											
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	事前に指示した文献(論文)の通読	50%										
	授業時の議論	50%										
注意事項	・ 授業者間で議論を行う授業形式のため、受講生数を最大10名に制限する。 ・ 受講生の状況に応じて、授業内容を変更することがある。											
備考	授業中に指示する。											
リンク	URL											